

病害虫発生予察特殊報(第2号)について

令和6年6月、紀の川市のトルコギキョウ栽培ほ場において、葉および茎に白色～乳白色の斑点が生じている株が確認された。農林水産省神戸植物防疫所に診断を依頼したところ、本県では未発生のトルコギキョウ白さび病（仮称）であることが確認されたため、令和6年度病害虫発生予察特殊報（第2号）を別添のとおり発表します。

（補足）

県農作物病害虫防除所では、植物防疫法に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査の結果等を分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。

「病害虫発生予察特殊報」は新たな病害虫を発見した場合など、生産現場への影響が懸念される場合に発表します。

（連絡先）

担当課室	鳥獣害対策課	農作物病害虫防除所
担当者	岩倉	菱池
電話	073-441-2905	0736-64-2300

令和6年9月4日

令和6年度病害虫発生予察特殊報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：トルコギキョウ白さび病（仮称）
2. 病原菌：*Pustula centaurei*
3. 作物名：トルコギキョウ（施設栽培）
4. 発生地域：紀の川市
5. 発生確認の経過および県内外での発生状況

令和6年6月、紀の川市のトルコギキョウ栽培ほ場において、葉および茎に白色～乳白色の斑点が生じている株が確認された（図1、2）。農林水産省神戸植物防疫所に診断を依頼したところ、本県では未発生のトルコギキョウ白さび病（仮称）であることが確認された。本病は平成29年に山口県で初めて確認され、令和元年に広島県において確認されている。

6. 病徴および被害

トルコギキョウの茎葉に、白色～乳白色の隆起した斑点（発疱）が生じる。斑点は、輪紋状に形成される場合がある。やがて斑点の表皮が破れ、白色粉状の分生子のうが露出して飛散する。斑点周辺の組織内には卵胞子が認められる。分生子のうは無色透明、直方体に近く、角は丸い（図3）。卵胞子はほぼ球形で、表面に網目と突起を有する。未熟な卵胞子は、薄い黄褐色～琥珀色で、成熟した卵胞子は暗褐色である（図4）。

7. 病原菌の性質および伝染

本病原菌の宿主は、リンドウ科植物（海外でトルコギキョウ、ベニバナセンブリ等）が報告されている。

8. 防除対策

- 1) ほ場をよく見回り早期発見に努め、発生を確認した場合は、罹病した茎葉を速やかに除去し、ほ場外に持ち出して、焼却するか土中深くに埋めるなどして適切に処理する。また、栽培終了後のほ場内における残渣も、罹病した茎葉と同様の方法で速やかに処理する。
- 2) 本病に登録されている薬剤はない。



図1 葉の病徴



図2 茎の病徴



図3 分生子のう

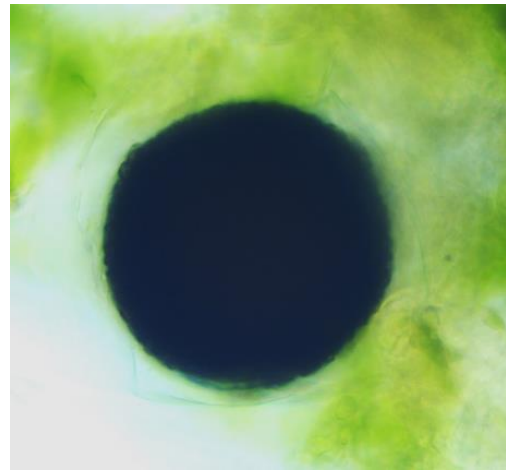


図4 成熟卵胞子

和歌山県農作物病害虫防除所
電話：0736(64)2300